

氏 名	家田 麻紗
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第419号
学位授与年月日	平成26年3月17日
審 査 委 員	主査 教授 田邊 一明
	副査 教授 紫藤 治
	副査 教授 齊藤 洋司

論文審査の結果の要旨

統合失調症は難治性疾患であり、その病態や原因については、神経伝達物質機能異常、神経発達障害、神経炎症仮説、遺伝性発症脆弱性、ストレス脆弱性などが挙げられるが、これまでに一致した見解は得られていない。また、統合失調症の発症や臨床経過において、自律神経系の異常が指摘されており、唾液アミラーゼ値や心拍変動などの非侵襲的な評価方法が注目されている。申請者は、自律神経系マーカーである唾液アミラーゼ値と心拍変動を同時に測定することにより統合失調症における自律神経機能を詳細に検討した。具体的には、統合失調症患者群・健常成人群各25名に対し、唾液アミラーゼ値と心拍変動の同時測定を行った。その結果、心拍変動において交感神経活動指標(LF/HF)は両群間で差は認めなかったが、副交感神経活動指標である高周波成分(HF)では統合失調症群が有意に低下していた。また、唾液アミラーゼ値は、統合失調症患者群で有意に上昇しており、唾液アミラーゼ値と精神症状重症度の間には正の相関を認めた。以上より、統合失調症の唾液アミラーゼ値の上昇の背景には、副交感神経系の機能低下の存在が示唆された。

本研究は統合失調症の病態への自律神経機能異常の関与を強く示唆するものであり、申請者が示した、state markerとしての唾液アミラーゼ値の有用性など、統合失調症の病態把握、さらには発症予防への寄与も考えられる。